

宮城県観光復興対策実施計画 平成30年度評価調書

別紙

都道府県名	宮城県	計画に包摂される市町村	塩竈市、気仙沼市、白石市、名取市、登米市、栗原市、東松島市、大崎市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町、亘理町、松島町、涌谷町、南三陸町				
計画期間	平成28年度～令和2年度	評価責任者	宮城県経済商工観光部観光課長 佐藤 静哉				
計画の成果目標(定量的指標)		平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	備考
指標①	外国人延べ宿泊者数	19万7千人	24万8千人	31万4千人	39万6千人	50万人	
指標②	外国人旅行消費額	66.8億円	84.3億円	106億円	124億円	145.1億円	
指標③							

1 定量的指標に関連する交付金事業の効果の発現状況	宮城県の外国人延べ宿泊者数の増加(H29 25万2千人 → H30 36万4千人 【観光庁 宿泊旅行統計調査より】) 宮城県の外国人旅行消費額の増加 (H29 100.4億円→ H30 216.6億円【観光庁の共通基準に基づく宮城県調査より】)				
2 定量的指標の達成状況	指標① 外国人延べ宿泊者数	目標値	31万4千人	目標値の実現状況に関する評価	東北観光復興対策交付金を活用した取組の成果があったほか、平成29年9月に就航した台湾との直行便増便などの要因にも後押しされた形である。 外国人旅行消費額については、特にビジネス目的の観光入込客による増加が影響し目標値を大きく上回った。今後も県内周遊コンテンツの造成や受入環境の整備等を進める等、さらなる消費額の増大を図る。
		実績値	36万4千人		
	指標② 外国人旅行消費額	目標値	106億円	目標値の実現状況に関する評価	
		実績値	199億円		
	指標③	目標値		目標値の実現状況に関する評価	
		実績値			
3 事業の進捗状況	重点市場である東アジア各国の特徴や、県内の風評被害の状況等を踏まえたプロモーションを継続的に実施したほか、新たに欧米豪に向けて実施したプロモーションの効果もあり、外国人延べ宿泊者数は目標を上回る成果があった。また、宮城オルレや白石市の甲冑試着体験など着地型コンテンツの造成・磨き上げも進み、地域に外国人が訪れる仕組みづくりが進んでいる。このことから順調に進んでいるものと判断する。				
4 評価方法	宮城県の政策評価による				
5 中間評価の公表方法	県のホームページにて公表する。				
6 計画全体の総合評価	本観光復興実施計画では、東北観光復興対策交付金を活用したコンテンツ造成と受入環境整備、戦略的なプロモーションを連動させながら取り組んでおり、その結果が観光入込客数や観光消費額の増加、及び外国人延べ宿泊者数の伸び率の上昇という形で現れたものと分析している。特に台湾との直行便就航を契機に、台湾からの旅行者が増加したことが全体を大きく押し上げた要因となっており、この流れを止めず東北におけるインバウンドの受入体制整備を一層進めることにより、新たな国との間に直行便が就航するなどの可能性も見えてくることから、東北一体となった機運醸成は極めて重要である。一方でKPIが未達成の事業も少なからず存在することから、2021年度以降を見据え、真に必要な事業の選択と集中を図っていく必要がある。				
7 今後の方針等	平成30年度は本県の観光復興対策実施計画に掲げる訪日外国人延べ宿泊者数と外国人旅行消費額の目標を両方とも達成したことから、引き続き最終目標の達成に向けて事業を推進していく。令和元年度以降は、特に受入環境整備と観光資源の発掘、磨き上げに重点を置き、DMOなどとも連携して2020年東京オリンピック・パラリンピック大会終了後にも継続した誘客を図れるよう魅力的な観光地づくりを推進する。また、新たにデジタルマーケティングの手法を取り入れ、世界各国に向けて魅力的な観光資源の効果的な情報発信を行うとともに、広告閲覧者の属性などのリマーケティングを実施することにより更なる観光コンテンツの造成、磨き上げを図っていく。				